



学校法人永原学園
さんこう
児童クラブ通信

令和5年3月発行
— 第10号 —

【三光幼稚園】
TEL：0952-31-0753
【さんこう児童クラブ携帯】
TEL：090-7430-1312

ももの節句

2月の後半は、日本の伝統行事の「ひな祭り」に合わせて楽しそうにリースを作っていました。

小学生と幼児の違いは、先生や作り方を見て自分で進めていくことができる所です。分からないと、先生や友達に積極的に聞いて、また、自分なりのアレンジや工夫が見られ、個性が光ります。どの子ども、幼保時代に経験した体験が、「やりたい!」「どうなってるの?」「こんな風にもできるよ」等々、発展するきっかけになっているようです。放課後の自由な時間に、「したい～」という思いをもって自主的に取り組むことはだいじなのだなぁと、改めて感じました。

次年度に向けて、子ども達と先生がよく話し合っ、楽しい計画ができるといいですね (^ ^)。

さて、本年度もあと1月となりました。本園では、クラブが更に充実できるよう、後日保護者様にアンケートを取らせて頂きたいと思ひます。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

☆ 3月のおたのしみ ☆

- 春の壁面製作 (さくらの木)
- 戸外活動 (ドッジボール・氷鬼 等)

3月の学童児童数

	2月末 在籍数	3月 新規人数	3月初日 人数
1年生	11	0	11
2年生	1	0	1
3年生	0	0	0
計	12	0	12

児童の様子

最近は戸外に出てみんなで鬼ごっこやケイドロなどを楽しむ姿が見られるようになりました。以前は男の子、女の子でそれぞれ違う遊びをしていましたが、3学期になると、友達との仲がさらに深まり、色々な遊びをみんなで楽しむことができているようです (*^-^*)

今回はひなまつり製作の様子を紹介します (^0^).

最近折り紙でアニメのキャラクターを作ったり、切り紙を楽しむ子が多かったので、折り紙を使った製作にしました♪。先生の見本を見ると、「かわいい～!作ってみたい!」と女の子たちが中心に集まってきました♪。女の子たちがひなリースを作り、男の子は「僕たちはおひなさまを見てるポケモンを折り紙で作るよ!」と男の子は折り紙でリースの周りのキャラクター達を作ってくれました☆ミニおひなさまやお内裏様がどんな姿だったか、家にあるひな人形をよく思い出しながら取り組む子どもたち。絵を描いたり、ハサミで切ったり、のり貼りしたりと工程が多かったですが、さすが小学生!とても素敵なひなリースができ上がりました (*^-^*) ♡。



巻いて、切って、折って、貼って・・・
することがいっぱいあったけど、
上手に作る事ができたよ!
分からないところは友達が教えてくれたんだ♪

楽しいひなまつりになりますように・・・☆

◇ 3月の目標 ◇

「新1年生を迎える準備をする」

4月からはさんこう児童クラブにも新1年生が入所します!子どもたちに伝えると、「わくわく、そわそわ..」!でも、とても楽しみにしているようです。

そこで、みんなで室内の環境を整えたり、ロッカーの場所などを話し合ったりして、3月は新しく入ってくる1年生が楽しく、気持ちよく過ごしてもらえようように考えていきたいと思ひます♪

「発達障がいのある人の感覚特性について考えてみましょう」

子ども学部 子ども学科 准教授 横田 聡

幼少期からの脳のネットワークの不具合がひとつの要因として起こり、生涯にわたり影響を及ぼすライフスパン・ディス・オーダーとしてとらえられているのが「発達障がい」です。その中で、近年、様々な方向から研究され、多くの報告がなされてきた中にASD (Autism Spectrum Disorders: 自閉スペクトラム症) があります。これまでその中核と考えられる症状として、社会性や対人コミュニケーションの問題を取り扱ったものが中心でした。ところが近年、その症状の中で以前から指摘されていた知覚・感覚過敏特性が再認識されてきました。また、感覚過敏をもつ当事者の生活上の困難や苦しみが著書等により語られるようになってきました。さらに、思春期以降の発達障がいのある方のパニック等の行動は就学期における周囲の「知覚・感覚特性」の理解のなさ、不適切なかかわりによるトラウマによるとも言われてきています。

そこで、今回、ASDのある方の「知覚・感覚過敏」の問題について、一人でも多くの方の理解が進むことにより、当事者の方の生活の中での生きにくさが軽減されていくことになればと思い整理してみました。

① DSM-5 という診断基準に「感覚過敏」「感覚鈍麻」が加わりました。

限局された興味と反復行動という項目に「感覚刺激に対する過敏さまたは鈍感さ、または環境への感覚的側面に対する並外れた興味」というのが加えられました。

② ASDのある方のどの程度が感覚の問題をもっているのか。

2017年のアメリカの10～14歳のASDの子ども116名を対象として感覚プロフィール検査を実施した結果によると、約92%が感覚過敏・鈍麻等の感覚の問題を抱えているということがわかりました。このことは、その程度、頻度、内容等を問わず、科学的理解、対策、周囲の適切な対応が求められていると言えます。

③ この感覚特性とはどのような概念と考えることができるのか。

感覚過敏や鈍麻という言葉はある特定の生理的状態を指すより、刺激に対する神経の反応から刺激を回避する行動を含むとても広範囲な概念と考えられます。さらに言えば、この感覚という言葉は「知覚」「認知」「情動」を含んだ言葉であり、この3つが主要な要素であると私は考えています。知覚は無意識下で自動的に行われるものであり、認知は意識的、ある程度能動的に行われるものであると考えます。さらに情動とは、外界の刺激に対して何らかの意味付けをし、好意や恐怖や不安をもったりすることと考えます。

④ 感覚特性は記憶のあり様にも影響を与える。

記憶には「印象記憶」「短期記憶(学習記憶)」「長期記憶」というものがあります。通常、印象記憶はその瞬間の感じた記憶なのですぐに消失します。ですが知覚・感覚過敏のある方は、この印象記憶も、短期記憶、長期記憶と同等レベルで残ることになります。このことは日常のありふれた刺激が、過大な負荷となるとも言えます。この積み重ねが思春期以降のフラッシュバック等の行動の困難さ、それによる生きにくさに繋がります。